

# ふるさと 資料紹介

= 54 =

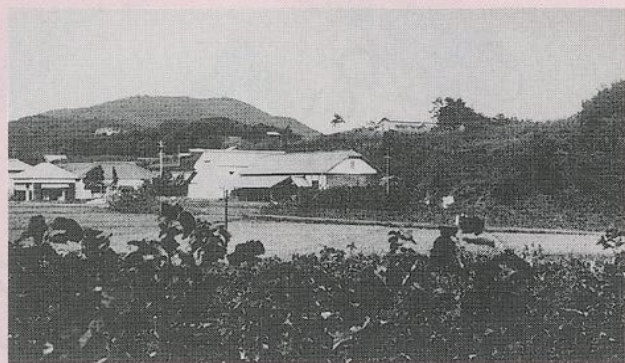
## 史料と地名からみた 地区の歴史⑨

### 山之上(一)

平安時代のおわり、都では保元ほうげんの乱がおこりました。貴族が無力化していることが示され、後の武士の政権へつながらる争乱でした。

当時、関白として勢力をふるっていた藤原忠通の所領を示した書状(保元元年/一一五六)に「山上美乃国」と書かれています。歴史上「山之上」が出てくるのはこれが初めてです。これ以後、室町時代にかけて山之上は莊園名として文書に現れます。

その後、在地勢力の抗争のなかで領家は転々とします。



▲山之上の風景(昭和10年ごろ)

弘治年間(一五五〇年代)、戦国大名の斉藤義竜が、桑原右近衛門という人物に与えた領地の中に山之上が示されています。

江戸時代、元和元年(一六一五)から尾張藩に編入されます。寛政年間の村高は千七百九石余。家数は約二〇〇戸、人口は千四六〇余人でした。

江戸中期、中之番、金屋(金

谷)、端畑(田畑)、野地原、西洞、本地、佐口、南坂の八カ村に分かれていましたが、明治五年に再び統合して山之上村となります。

計画中の博物館建設のため、現在いろいろな資料を集めています。文化課(文化会館内/内四〇八)まで情報をお寄せください。